

## 平成29年度研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

### 1. 研究の概要

プロジェクト名	生活科・総合的な学習の時間で育てたい資質・能力に関する研究		
プロジェクト期間	平成29年7月～平成30年3月		
申請代表者 (所属講座等)	菅沼 敬介 (教職教育院)	共同研究者 (所属講座等)	津川 裕 (生活総合教育講座) 福重秀人 (教育学部非常勤講師)
取組方法・取組実績の概要	<p>1. 生活科・総合的な学習の時間の認識に関する実態調査研究 児童生徒の立場として生活科・総合的な学習の時間の授業を受けてきた本学学生を対象に、「教育指導法科目」受講初期の段階で、生活科の認識と記憶に強く残っている授業及び総合的な学習の時間の認識を質問紙法の調査で実施した。</p> <p>2. 生活科・総合的な学習の時間で育みたい資質・能力の先行研究分析 野田 (2013) 「生活科で育った学力についての調査研究」及び、中野 (2000) 「総合的な学習は学力崩壊か学校再生か」、藤井・小林・桜井 (2014) 『『総合的な学習の時間』学習論』等から、生活科・総合的な学習の時間で育みたい資質・能力について先行研究分析及び文献調査を実施し、生活科・総合的な学習の時間で育みたい資質・能力を明らかにした。</p> <p>3. 生活科・総合的な学習の時間の授業分析 取組2から明らかになった生活科・総合的な学習の時間で育みたい資質・能力を基に、愛知県豊川市立東部小学校において生活科を、愛知県豊川市立御油小学校、愛知県安城市立桜井中学校において総合的な学習の時間の授業実践を計画、実施し、その有効性を明らかにした。</p>		
研究成果の概要	<p>1. 生活科・総合的な学習の時間の認識に関する実態調査研究 生活科の認識について223名に調査を行い、以下の3点が明らかになった。 (1) 肯定的な記憶(思い出)があるものの、詳細の記憶はあいまいである (2) 16%が社会科・理科の低学年版と認識している (3) 具体的な活動や体験を提示すると覚えている者が多く、教師として実践したい 総合的な学習の時間の認識について411名に調査を行い、以下の点が明らかになった。 (1) 学校種が上がるにしたがって記憶が無くなる (2) 学校種が上がるにしたがって「学習した記憶がない」の割合が増える (3) 小学校では「地域に関する学習」、中学校、高等学校では「職業に関する学習」を最も記憶に残る活動としている割合が高い</p> <p>2. 生活科・総合的な学習の時間で育みたい資質・能力の先行研究分析 生活科では、「主体的に対象に関わること」「じっくりと対象に関わること」「思いや願いの実現」を育みたい資質・能力として挙げられた。 総合的な学習の時間では、「意欲をもって対象に関わること」「学習を持続させること」「協同的に学習すること」を育みたい資質・能力として挙げられた。</p> <p>3. 生活科・総合的な学習の時間の授業分析 目的意識をもった授業実践は、児童生徒に資質・能力を育むことが明らかとなった。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について〔 <input type="checkbox"/> (該当事項) にチェック方願います。〕			
外部資金獲得申請(予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ( )	研究成果の公表方法(予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 学会(国内・国外): <input checked="" type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等: <input type="checkbox"/> その他: